

# サーベイランス

## 県感染症情報センター

# 声なき感染症を知る

◆74◆

今回は感染症対策をするための基本情報となる、感染症や病原体の特徴、流行状況の把握に必要な「サーベイランス」の仕組みとその重要性についてお話しします。

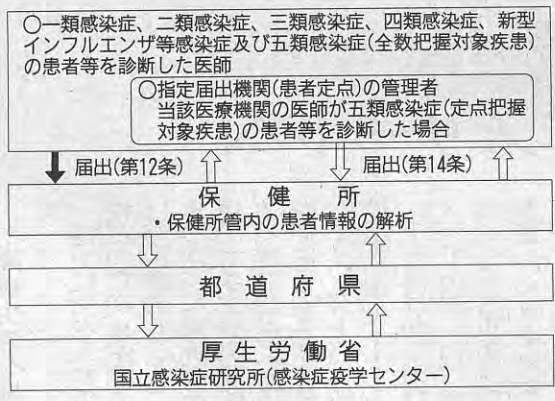
▽サーベイランスの意義  
サーベイランスとは、注意深く監視するという意味で、データの収集、分析、解釈、還元を継続的、かつ適時に行うことです。その目的は、アウトブレイク(特定の期間、地域、

集団で予想されるより多く感染症が発生すること)の探知、発生のベイスライン(平時の症例数)やトレンド(傾向)の把握であり、結果を国民や医療関係者へ迅速に提供・公開することにも、話題の数理モデルを活用した将来予測や感染症対策に活用されています。

トベースサーベイランス(EBS)と呼ばれるものの二つに大きく分かれます。①はあらかじめ決められた届出基準に合致した感染症を把握するもので、②は医療関係者の口コミやインターネット、テレビ等のメディアを情報源とし、感染症情報を把握するものです。

日本では現在、梅毒やデング熱など約100疾患ほどの感染症に対して、医師が診断し届出基準に合致した患者を保健所に届出しており、これは感染症法に基づく感染症発生動向調査事業となっています。

▽サーベイランスの仕組み  
指定届出機関(患者定点)の管理者が当該医療機関の医師が五類感染症(定点把握対象疾患)の患者等を診断した場合、保健所に届出(第14条)し、保健所管内の患者情報の解析、都道府県、厚生労働省(国立感染症研究所(感染症疫学センター))へ届出(第12条)し、国民・医療関係者の提供及び公開の仕組み(厚労省のホームページから)



# 異常を早期探知する データを対策に還元

逆に言うと、対策につなげるためにサーベイランスがあります。感染症は拡がると多数の人の健康に影響を及ぼす可能性があるので、危機管理と密接な関係があり、異常の早期探知と迅速な対応が重要です。また、感染症という疾患だけでなく、耐性菌などの病原体に対してもサーベイランスは行われています。

測できない感染症に対して、あらかじめ届出基準は準備できません。

日本でもその仕組みを構築していく必要があり、とりわけ臨床的にも公衆衛生上でも影響が大きく迅速な対応が必要な原因不明の重症感染症の発生動向を、早期に探知することを目的として、平成31年2月14日に開始した疑似症サーベイランスがあります。

▽さまざまなサーベイランスとそれぞれの課題  
サーベイランスは、①「インディケーターベースサーベイランス(IBS)」と呼ばれるものと、②「イベント

一方で、②は患者を診察した医療関係者の臨床現場の違和感から異常を探知し発信するので、未知の感染症にも対応することが可能で迅速性もあります。ただ医療関係者がその情報をどのように発信するか、メディアなどの受け手が膨大な情報から正しい情報をスクリーニングしきちんと探知できるかという課題があり、時には世間に無用な不安を煽(あお)ることに繋がりがかねません。

▽日本の感染症サーベイランス  
新型コロナウイルス感染症が届出感染症となるまでに把握する際にも、この仕組みが活用されました。感染症対策には医療現場と公衆衛生の協力が不可欠です。

国民・医療関係者の提供及び公開

▽日本の感染症サーベイランス

▽日本の感染症サーベイランス

▽日本の感染症サーベイランス